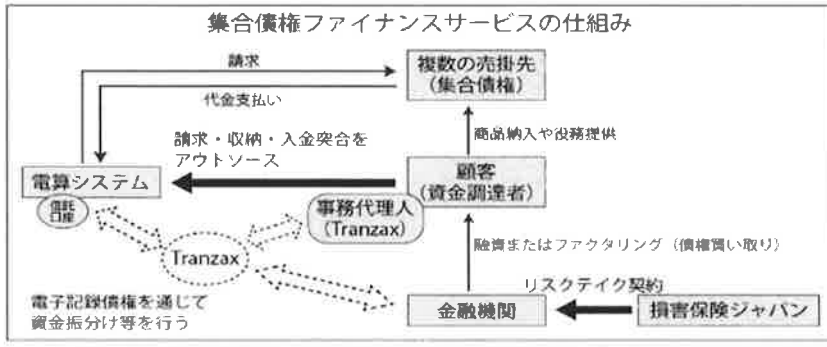


Tranzaxなど

# 集合債権サービス開始

## 売掛先管理の負担軽減 損保ジャパンがリスク補償



フィンテックベンチャーのTranzax(東京都)は5月15日、損害保険ジャパン、電算システム(岐阜県)と業務提携し、「集合債権ファイナンスサービス」を始めた。複数の売掛金(集合債権)を担保とした融資やファクタリングに対応したもので、資金調達者やその売掛先の信用リスク管理、債権回収時の負担を軽減できる。「全国初の取り組み。既に大手行、地方銀行、信用金庫から引き合いがある。全国の金融機関に順次、案内を始める」(Tranzax)。

同サービスは、損保ジャパンの取引信用保険を活用。売掛先が債務不履行となり、資金調達が返済不能となった際、損保ジャパンが金融機関に保険金を支払う。金融機関は、融資や債権買い取りの

信用リスクを損保ジャパンに一元化できる。資金調達者の売掛先からの入金は、電算システムが指定する信託口座に集約。金融機関はTranzaxが代理人となって電債の操作を代行するため事務負担がない。電算システムが請求・収納・入金突合の業務を請け負うこと、資金混在リスクがなくなる。売掛金担保

への解決策ともなる。損保ジャパンは、資金調達者の売掛先といった企業の信用力を人工知能(AI)で分析して、引き受けを判断する仕組みを取引信用保険に導入し、審査を迅速化。今回の新サービスにもそのノウハウを生かす。Tranzaxは「新型コロナウイルス感染症拡大などの環境変化にも強い資金調達手法。全国で1千億円規模の取り扱いを目指す」という。

融資の課題だった高頻度のモニタリング作業、案件組成の複雑さを解消できる。一方、資金調達者は、Tranzaxが代理店となって電債の操作を代行するため事務負担がない。電算システムが請求・収納・入金突合の業務を請け負うこと、資金混在リスクがなくなる。売掛金担保への解決策ともなる。損保ジャパンは、資金調達者の売掛先といった企業の信用力を人工知能(AI)で分析して、引き受けを判断する仕組みを取引信用保険に導入し、審査を迅速化。今回の新サービスにもそのノウハウを生かす。Tranzaxは「新型コロナウイルス感染症拡大などの環境変化にも強い資金調達手法。全国で1千億円規模の取り扱いを目指す」という。